

第31回 非開削技術研究発表会 に参加して

永井 貴大

NAGAI Takahiro

アイレック技建(株)
非開削推進事業本部営業部



「第31回非開削技術研究発表会」が、11月11日（水）に千代田区のエッサム神田2号館で開催されました。

本年度は、新型コロナウイルス感染防止対策として、参加人数を制限し、会場とWeb参加の併用という形式で行われ、参加人数は、会場申込が46名、Web参加が48名の合計94名でした。

また、会場内は入場時に検温を行い、演台には飛沫防止用のアクリルパネルを設置するなど、いわゆる「3つの密」に配慮した開催となりました。

それでは簡単にではありますが、今回執筆の機会を頂きましたので、その時の模様をお伝えしたいと思います。

発表会は、(一社)日本非開削技術協会の石川副会長による挨拶で始まりました。開会挨拶の中で、「平成元年から始まり、30年以上に渡って業界や分野を限定せず、非開削技術について幅広く取り扱ってきた非開削技術研究発表会」というお話がありました。私が本研究発表会に初めて参加したのは第29回（2018年11月14日開催）からだったのですが、コロナ禍でイベント開催が難しい現在の状況下で開催されたことは開削技術関係者の努力と、関心の高さゆえだと感じました。

今回の発表会ではテーマを「調査・技術」「推進技術（応用）」「推進技術（事例）」の3つのセッションに分け、合計10件の研究発表セッションのテーマ毎に新しい技術の開発状況や学術研究成果、施工事例や応用事例など幅広く貴重な発表が数多く行われました。

個人的には、ブラックホールの撮影を可能にしたスパースモデリング（少量であっても明確な特徴がある

データであれば正解を求めることが出来る手法）を用いた埋設管判定方法や、バーチカルカーブ（縦断曲線）で掘進機を地表面に直接押し出して回収することで、到達立坑築造等を省略する「掘進機地表面直接押出工法」は私の担当業務に関わるため非常に興味深い発表でした。

また、会場内には関係各社の技術等の紹介パネルが展示されており、休憩時間等には関心を持たれる方もいらっしゃいました。

閉会にあたり、(一社)日本非開削技術協会の宮武技術委員長より、「業界的に人材が不足している中で、AI技術の導入は技術者のサポートが期待できる」また、「今回の発表会での情報を共有して、非開削技術の新たな用途等を皆で見つけてもらいたい」という更なる発展に向けた挨拶があり、盛況のうちに発表会は終了しました。

例年であれば発表会の終了後は、会場を移して意見交換会が開催され、会員同士による情報交換や交流のほか、発表者への追加質問など活発な議論が展開されます。今年は、新型コロナウイルスの影響で残念ながら交流会は開催されなかったため、自社の参加メンバーと帰り道に議論するに留まりました。

今号では、この「第31回非開削技術研究発表会」にて発表された論文のアブストラクトが紹介されることですので、今回出席できなかった方々には是非ご一読頂きたいのはもちろんのこと、次回開催時の発表や参加への関心につながることを祈願するとともに、非開削技術の更なる発展と新たな発見への原動力になれば幸いです。